

回想法センター劇・6月号

2019年 5月25日発行
発行 龍ヶ崎市回想法センター
龍ヶ崎市平台 5-9-7
電話・FAX 0297-65-4443
email: pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
Hp: www.piakaiso.sakura.ne.jp

そう『健常』が『障害』になる

認知症を受け入れる社会

老いて『できない』ことだらけになって初めて『できる』ことがあるのに、私たちは『人生を否定される側』に回らないかと怯え『できない』ことをモグラたたきのようになくそうとする。『健常者』という心の『栓』を外せば『イライラは笑い』に裏返るのに、それがなかなかできないと元気者は嘆くと。著書「まともがゆれる」寄稿から。

年を取るということは、今まで当たり前のようになられていたことが出来なくなることです。それは誰にでも起こること、『健常』から『障害』になって初めて出来ることもあるのに、『障害』を治さないといけなく、『障害』にならないように予防をなさないと躍起になっています。

障害になりたくないという予防に一生懸命取り組んでも結果がついてこないで落ち込む方もいれば、結果を受け止められない方もいます。要介護4で我が家にやってきた母フクさんも、「頭が空っぽになってしまった」とよく泣きだした。そんな時は「秘書の私が覚えているから大丈夫」と言うと笑顔が戻りました。ボケを笑いに変えて101歳で亡くなるまで孫たちとババ抜きに興じていました。入院中の病棟では「フクさん退院しないで」と誰からも可愛がられ、ボケと笑いをふりまいていました。私たち見る側が老いを受け止め、理解し、老いに寄り添うことが求められているのではと。

なぜそんなに続きを・・・

5月26日（日）に上映した映画「道」は、私が映画が好きになったきっかけになった映画です。

この映画は、戦後のイタリア映画の名作中の名作とされています。上映後、別のバージョンの制作や、アニメ化の打診が殺到するも、「何故そんなに続きを欲しがするのか？皆、それほど想像力がないのか」と、フェリーニ監督はこれをすべて拒絶しました。フェリーニ監督はこの時、自己の模倣だけはすまいと心に誓っていました。



「悲しいストーリーだけど最後は幸せになってほしかった」等々、上映後お客様から様々な感想が寄せられました。純粋な女性と野獣のよな男の物語は、底知れぬ感動を見に来て下さった方々に与えてくれました。

6月の予定

6月 9日（日）映画会	1時30分～	ショッピングセンターリブラ1階
6月19日（水）笑顔屋	10時30分～12時	ショッピングセンターリブラ1階
6月28日（金）家族会	10時30分～12時	ショッピングセンターリブラ1階
6月23日（日）映画会	1時30分～	ショッピングセンターリブラ1階

問い合わせ先 龍ヶ崎市回想法センター